

北九州空港機能強化・利用促進特別委員会記録（No. 32）

1 日 時 令和6年7月24日（水）

午後2時00分 開会

午後2時40分 閉会

2 場 所 第1委員会室

3 出席委員（9人）

委員 長	日 野 雄 二	副 委 員 長	渡 辺 徹
委 員	吉 村 太 志	委 員	田 中 元
委 員	金 子 秀 一	委 員	奥 村 直 樹
委 員	大久保 無 我	委 員	高 橋 都
委 員	藤 沢 加 代		

4 欠席委員（1人）

委 員 渡 辺 修 一

5 出席説明員

港湾空港局長	佐 溝 圭太郎	総 務 部 長	宮 金 満
空港企画部長	田 代 昇 三	空港機能強化担当部長	黒 岩 亮
総 務 課 長	日比野 将 隆	空港企画課長	高 岡 智 靖
空港機能強化担当課長	椿 辰一郎	旅客営業担当課長	尾 崎 英 一
アクセス・新技術担当課長	一 田 剛		外 関 係 職 員

6 事務局職員

政策調査課長	清 水 俊 哉	政 策 係 長	袴 着 健太郎
政 策 係	伊 東 加 奈		

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	北九州空港における、航空ネットワークの継続・発展及び利用促進、並びに就航・航空会社への支援のあり方について外1件	港湾空港局から調査研究事項について別添資料のとおり説明を受けた。
2	北九州エアターミナル株式会社の経営状況について	港湾空港局から別添資料のとおり報告を受けた。

8 会議の経過

○委員長（日野雄二君）開会します。

本日は、本委員会の所管事項のうち、北九州空港における航空ネットワークの継続・発展及び利用促進、並びに就航航空会社への支援の在り方について、北九州空港の滑走路 3,000 メートル化の早期実現等、機能強化についての2件を一括して議題とします。

初めに、国に対する要望時期や内容等についてです。

これまで精力的に要望活動を重ねてきた結果、滑走路延長の新規事業化が決定しました。こうした成果を踏まえ、今年度の国への要望について検討していきたいと思います。その参考として、本年度、執行部が行った国提案活動について、港湾空港局の説明を受けます。空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 それでは、調査研究項目の北九州空港に係る国への提案活動について御報告します。

資料の2ページを御覧ください。

北九州空港の事業推進に係る執行部からの国への提案は、令和6年7月10日に行いました。提案先は、国土交通省と福岡県内に事務所を置く選挙区及び比例区選出の関係国会議員でございます。今年度の提案は大項目として3項目です。3ページ目以降が提案書から抜粋したものとなります。

大項目の1、滑走路 3,000 メートル化をはじめとする物流拠点機能の向上に向けた協力におきましては、4点要望させていただいております。1点目は、国において進めております3,000メートル滑走路の早期供用を推進すること。次に、2点目は、航空機の増便や新規就航などの需要を見据え、貨物機用エプロンの拡充整備についてでございます。また、3点目として、新たな産業集積が期待される空港島北西部の新門司沖土砂処分場（3工区）の土地活用が進むよう配慮していただくこと。それから、4点目として、大型貨物機による欧米への直行便に対応するため、航空機燃料の給油能力の増強への支援についてでございます。

次に、大項目の2、旅客、貨物の受入れ体制強化への支援では、コロナ禍からの旅客の回復、また、滑走路 3,000 メートル化に向けた航空貨物の需要増に対応するため、課題である旅客、

貨物の受入れ環境の充実や空港業務の人員体制の確保、受入れ体制の強化について、国への支援を提案しております。

最後に、大項目の3、国内航空貨物事業者への着陸料、航空機燃料税等の公租公課軽減への支援では、本年4月のヤマトグループとJALグループによる国内貨物便の新規事業参入をきっかけとし、貨物専用機を運航する国内航空貨物事業者への着陸料、航空機燃料税等の公租公課を軽減するよう提案しております。

資料3 ページ目以降から6 ページまでが提案の内容でございます。

以上で北九州空港に係る国への提案活動について説明を終わります。

○委員長（日野雄二君） ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきり述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。質問、意見はありませんか。金子委員。

○委員（金子秀一君） 要望、拝見いたしました。それで1点、これは要望項目にはないんですが、度重なる福岡空港の門限によるダイバートの対応についての話とか国に対しての懇談的なものはなかったのか、教えていただければと思います。

○委員長（日野雄二君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 今回の要望活動の中という意味では、委員御指摘のダイバートの項目については、特段、詳しい話を国との間ではやっておりません。以上です。

○委員長（日野雄二君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） 今後、福岡県との協議がスタートした段階であろうかと思うんですけども、決まった段階で、早急に国への様々な要望を行いながら、今のところ門限を過ぎての受入れという形ではありますが、福岡空港の補完空港から、さらには北九州空港も活用しながら福岡全体の航空事業を回していくという部分での要望につなげていければと思っておりますので、要望とさせていただきます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） ほかに。田中委員。

○委員（田中元君） 先日ニュースで見たんですけど、福岡空港のイオンの物流が新設されたということなんですけど、北九州空港には影響がないのかなとは思いますが、どうなんですかね。

○委員長（日野雄二君） 空港企画課長。

○空港企画課長 福岡空港近辺にイオンの物流センターが完成したというお話でよろしいでしょうか。企業様の物流ネットワークというのは、拠点施設をどこに構えるか、店舗にどう配送するかということはそれぞれ取り組まれていると聞いております。北九州市内にはなかなか、現時点でそういう物流拠点を整備する用地が限られているということもございまして、同じような大規模なものは、今後、民間の土地開発なども活用しながら産業経済局で用地確保を取り

組んでいくと聞いておりますし、同じような需要は十分あると思っております。北九州空港の物流に関して、そのイオンの物流センターの影響は、直接はないのかなとは思いますが、そういう企業様の物流網の拠点を誘致することで航空貨物も増えていくと思っておりますので、これから産業経済局と一緒に取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）田中委員。

○委員（田中元君）影響はないということなんですね。分かりました。以上です。

○委員長（日野雄二君）ほかに。大久保委員。

○委員（大久保無我君）以前、空港へ行ったときにお話を聞かせてもらったことがあって、福岡の税関を通して持ってこないといけないとかいう話があったんですが、今そこら辺についての動きがどうなっているのか教えていただければと思います。

○委員長（日野雄二君）空港企画課長。

○空港企画課長 航空貨物の通関という意味で、税関機能は常駐体制をもう引いていただいておりますので、税関の対応としては問題ございません。ただ、それに付随して、そういう貨物をお客様から預かって通関したり梱包したり、そういうサービスをする物流事業者の進出が、まだ北九州空港にできていないというところがございます。福岡空港近辺に全九州の貨物が集まって、そこで通関、梱包されて、関空に運んだり、北九州に運んだりということで輸送されていくのが、今までの流れになっておりますので、今度、国で公募いただきました物流事業者向けの施設の着工がもうしばらくしたら始まりまして、1年後ぐらいには整備される計画となっておりますので、そこに物流事業者の皆さんが進出することで、そういう取扱いが本格化するだろうということで、そこに向けて準備を進めているところでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）分かりました。

○委員長（日野雄二君）ほかに御意見はございませんか。高橋委員。

○委員（高橋都君）給油の問題でお尋ねします。欧米などの大型貨物の就航に当たっては、今の状況では必要な燃料が給油できないために、今後誘致するためにも、利用促進をするために給油の能力を大きくするという課題があるとして書かれておりますけれども、その能力増強のための支援にはどういった支援があるのかを具体的に教えていただきたいと思っております。

○委員長（日野雄二君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 今、給油能力の現状を把握しているところで、給油事業者や石油の元売り事業者などにヒアリングをかけまして、一体どのくらいの状況まで対応できるのか、どのくらいの対応を強化する必要があるのかといったところを調べています。それを福岡県や国などと調整しまして、必要な支援を求めていくというのが今回の要望活動の一環になっていま

す。まだその支援の在り方みたいなのは定まっていないところではありますが、必要な支援を国や県などと一緒になってつくってあげればと考えています。以上です。

○委員長（日野雄二君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ありがとうございます。それからもう一つ、同じ燃料の問題でS A Fは持続可能な航空燃料ということなんですが、この体制を確立することも課題になっているかと思うんですが、具体的に今の状況や今後どういうふうに進めていくのか、分かる範囲で教えてください。

○委員長（日野雄二君） アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長 欧米ではS A Fの使用が義務化されていることから、S A Fの供給体制の有無に対する海外の航空会社の関心は特に高く、航空会社が就航先を選択する上で重要な要因になると考えています。現状は世界的にもS A Fの供給量が少なく、製造コストなども課題がございます。S A Fの導入に当たりまして、将来的なサプライチェーンの構築に向けて、供給者であるS A F製造業者であるとか調達や貯蔵に係る商社、事業者であるエアライン等の意見を聞きながら、北九州市としてどのような取組や支援が必要となるかといったところを、現在検討しているような状況でございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） 脱炭素化ということで今後どうしても重要になってくると思うんですけど、今、国内でこれが進んでいるところとか、そこから学ぶべきものとか、何かそういったものがあれば教えてください。

○委員長（日野雄二君） アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長 国内での状況でございますけれども、出光興産やコスモ石油、それからエネオス等、大手の石油製造業者につきましては、S A Fの国内での製造に向けて実証プラントや商用化に向けたプラントの整備に向けて今進んでいるところでございます。また、本格的なS A Fの製造は今後、これからといったような状況でございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） 日本は遅れているんじゃないかなと思うんですけど、海外ではどういうふうに日本の今の在り方を考えているのか。海外の進んでいるところから学ぶべきものがあるかと思うんですけど、どうでしょうか。

○委員長（日野雄二君） アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長 先ほども少し申し上げましたとおり、S A Fの大量の供給体制と製造コスト、そういったところは国としても課題であると考えているというふうなところでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 高橋委員。

○委員（高橋都君）分かりました。遅れているということが分かりました。ありがとうございます。

○委員長（日野雄二君）ほかに質問はございませんか。奥村委員。

○委員（奥村直樹君）提案活動についてなんですが、提案先は国土交通省の主要幹部、それから各選挙区選出あるいは比例の議員と書いてあるんですけど、これは1か所に集まってまとめて行っているんですか。どんな形なのでしょう。

○委員長（日野雄二君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 今回の提案活動については、提案先の方々の御都合がありますので、それを事前に確認の上で、それぞれ説明できる要員を配置して、それで個別に対応しているような状況でございます。以上です。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）それぞれで説明して、何か答えみたいなのはあるんですか。国交省の皆さんは多分受け取るだけかと思うんですが、議員の皆さんは、こう考えているよとか、こうしたらいいんじゃないとか、意見があったりするのかなと思うんですけど、それはどんな感じだったのでしょうか。

○委員長（日野雄二君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 提案活動全般については政策局でまとめておりますけれども、我々の空港に関するところの一问一答については、まだまとまっていないところでございます。以上です。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）今回の提案活動を受けて、こんな提案したよとかこうしたよといった回答みたいなのは得られるんですか。

○委員長（日野雄二君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 議事という意味では、先ほどの政策局がこれからまとめていくものと考えています。個別に我々の空港に関するところの問合せがあれば、しっかり答えていこうという準備がございます。以上です。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）また議事を待っておりますが、こうやって要望されているので、その効果として、こんな効果があったっていう特別なものがあれば、また教えてもらえたらと思いますのでよろしくお願いします。終わります。

○委員長（日野雄二君）ほかに意見ございませんか。藤沢委員。

○委員（藤沢加代君）滑走路が3,000メートル化になるっていうのはもう決まっているわけで、これが早期にできるようにというのは分かるんですけども、例えばこの提案項目の中で、エ

プロンの拡充整備とか、航空機燃料の給油能力増強への支援とか、旅客、貨物の受入れ体制強化への支援とかは、そもそも 3,000 メートルの強化が図られるわけだから、あえて市が提案しなくても国で考えているというようなことにはならないんですかね。それをさらに促進するためというようなことなんでしょうか。

それが1つと、それから、新門司沖土砂処分場（3工区）の土地活用への配慮というのは何かということをお尋ねしたいです。以上です。

○委員長（日野雄二君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 滑走路の 3,000 メートル化は、今から 10 年以上前、北九州空港が開港してすぐに、もう要望活動を始めていました。それについては実現に向けて時間がかかることもありますので、3,000 メートル化の後について、今ここで説明申し上げたエプロンですとか航空機燃料ですとか、そういったところについては、現状の 2,500 メートルの滑走路で十分最適な量というのを国で確保して、しっかり造っていただいていた。この 3,000 メートル化が実現するに当たって、そこから作り出される未来に対していろんな施設が足りないところがございまして、そこについて今回改めて要望しているような次第でございます。

それと、3工区については、この配慮という言葉がちょっと分かりにくい言葉遣いではございますけれども、北九州空港のその3工区は 70 ヘクタールを超える大きな面積がございまして。産業集積を図られるためにとっても有力な場所だと我々は考えていますが、今あくまでも埋立処分場ということで、国が管理する海面処分場でございますので、北九州市で土地活用がうまく図られるように、我々の自治体に対する十分な配慮をお願いしますという意図で、こういうふうな記載をさせていただいています。以上です。

○委員長（日野雄二君） 藤沢委員。

○委員（藤沢加代君） 分かりました。そうすると、これは国の空港だから国が 3,000 メートルにするというんですけれども、空港の在り方というか扱い方というのは、いろいろ路線を誘致したり、どういう個性を發揮していくかというのは、市が考えることなんでしょうかね。国は造ったから上手に使ってくださいというのが国のスタンスなんでしょうかね。集客とか路線の就航とかを具体的に考えていくのは、空港があるところの市が中心になるという考え方で、空港とか港というのはそんなふうにできていくものなんでしょうかね。よくその辺が分からないで、国の空港なのに、市がどこまで具体的にこういうふうな提案や要望活動をするのかなと思ったところですが、そういう疑問にはどんなふうにお答えいただけるのかなと思います。

○委員長（日野雄二君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 国の管理空港でございますので、当然国もこの利用促進の立場というのはございまして、適正かつ地元のために使われるように、そういった観点で国で整備していただいています。ただ、北九州空港は北九州市と苅田町にまたがるエリアにございまして、

これを最大限に利用するという意味では、福岡県とか、我々とか、苅田町とか、産業界とか、そういったところに一定の役割があるんじゃないかと考えていて、その中で、今回のような不十分なところの手当てを少し国にお願いしながら、しっかり活用していきたいと考えているところでございます。我々は空港の管理者ではございませんけれども、使命感を持って利用促進をやっていくということでございます。以上です。

○委員長（日野雄二君） 藤沢委員。

○委員（藤沢加代君） あと処分場のことですが、実際にこの土地活用が具体化していくには、どれぐらいかかるものなんでしょうか。結構時間がかかるんじゃないかなと思うんですが。北九州空港ができる前にも、何回か私たち視察にも行って、水抜きをしている様子なんかも見つたことがあるので、いろんな過程を経ていくと思うんですけど、そういうスケジュールはもう立っているんでしょうか。

○委員長（日野雄二君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 3工区につきましても、今のところ国土交通省というか、国の管理エリアの処分場でございまして、関門航路の土砂の処分場としてずっと活用していただいています。それで、そのスケジュール感については、国からはしっかりとしたところをまだ示していただいていませんが、今、新門司2期ということで空港島の東側に新たな埋立地を国の事業として造っているところでございます。これがいつできるかもまだ分かっていませんが、処分できる目途が立ち次第、3工区の活用が進められるようになるのか議論が進められるようになるかと考えていまして、もう少し時間がかかるかもしれませんが、その時期を国としっかり連絡しながら情報交換していきたいと考えています。以上です。

○委員長（日野雄二君） 藤沢委員。

○委員（藤沢加代君） 分かりました。ありがとうございます。以上です。

○委員長（日野雄二君） 配慮というよりも、国土交通省が口を出さずに、市主導でいろいろさせてくれということなんでしょう。市がいろいろ考えてやるんで、それを後押ししてくれということなんでしょう。第3工区の埋立てが、あまりにも遅過ぎて、もう10年過ぎて今の状態なんですよね。国がスピード感を持っていないのもそうだけど、市も持っていないということ、活用も提案していないということです。その辺は重きを置いて、いろんなアイデアを出してスピード感を持ってやっていかないと、今藤沢委員が言われていることは、土地活用の配慮という言葉がおかしいんじゃないかと、配慮ではないということをお願いしたいと思ったんで、ちょっと口を挟みましたけれども、しっかりやってください。

ほかにございませんか。渡辺委員。

○委員（渡辺徹君） ちょっと口を挟んで恐縮なんですけど、今委員長が言われた第3工区ですが、空港とは関係ないかもしれませんが、総務部長もいらっしゃいますんで、その辺のしゅんせ

つをしっかり、空港だけではなくて港湾の整備もそれによって整ってくると思いますので、両面合わせて空港島を早く埋める。そのためにはしゅんせつ、土砂がたまっているところをできるだけ早く取っていただく、そして埋めていただくというような作業もしっかりお願いしたいと思いますので、大変恐縮ですけどよろしくお願いします。

○委員長（日野雄二君） 強い要望として。ありがとうございました。

ほかに意見ございませんか。

（「なし」の声あり。）

ほかになければ、ただいま説明を受けた取組について、私としては、国において来年度予算の編成作業が本格化する前に要望すべきと考えます。そのために要望の時期は 10 月上旬までに、要望者は正副議長と私と副委員長で行いたいと思いますが、御意見はありませんか。

（「なし」の声あり。）

国要望については、先ほど提案のと通りの時期と要望者で行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

なお、要望内容については、ただいまの皆様の御意見も踏まえ、執行部と調整しますので、正副委員長に御一任いただきたいと思いますと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

ほかになければ、次に、港湾空港局から北九州エアターミナル株式会社の経営状況について報告を受けます。空港企画課長。

○空港企画課長 それでは、第三セクターであります北九州エアターミナル株式会社の経営状況について御報告申し上げます。

資料の 7 ページを御覧ください。まず、会社概要でございます。

同社は、北九州空港におきまして貸室業や空港利用施設の賃貸業等を行っております。資本金は 39 億 6,588 万 4,000 円、そのうち本市の出資額は 12 億 1,599 万 2,000 円、出資割合は 30.66%でございます。従業員は 21 人となっております。

その下、令和 5 年度の営業報告及び収支状況の要点を申し上げます。

同社の経営状況につきましては、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後、国際旅客定期便が再開するなど空港利用者の回復によりまして増収となっており、当期純利益を計上しているところでございます。旅客数につきましては、国内、国際、合計で 117 万 5,000 人、対前年度比 140.1%でございます。貨物につきましては、国内、国際、合計で約 1 万 2,000 トンと、対前年度比で 69.0%となっております。そのほか、ターミナルビルの来館者数でございますが

169万8,000人、対前年比で129.0%、駐車場利用台数は26万8,000台、対前年度比で128.8%と増加しているところでございます。

当期売上高は約10億8,925万1,000円と、前年度比で123.0%となっております。また、売上原価、販売費、一般管理費の合計は、光熱水費や修繕費等の増加によりまして約9億2,857万2,000円と、前年度比で104.4%となっております。これらの結果、当期の営業利益1億5,255万円となっております。経常利益につきましては1億7,570万5,000円、また、当期純利益は1億5,347万円と黒字を確保しているところでございます。

その他の項目でございます。資金調達についてはございませんでした。設備投資につきましては、税関貨物検査室の新設、国内第2貨物上屋の新設などを行っております。

以上によりまして、前年度の利益剰余金から当期純利益を加えた繰越利益剰余金は、累計で6億4,022万4,000円となっております。本年6月24日に開催されました株主総会におきまして、いずれの議案も異議なく承認、可決されております。

詳細につきましては、資料の8ページ以降に株主総会資料の抜粋を添付しておりますので、後ほど御参照いただければと思います。

以上で北九州エアターミナルの経営状況についての報告を終わります。

○委員長（日野雄二君） ただいまの報告に対し、質問、意見を受けます。

質問、意見はありませんか。金子委員。

○委員（金子秀一君） 資料を拝見いたしますと、今回のエアターミナルの取締役10名の中に田中江美さんが新任で選任されていると思います。TOTOからの取締役ということなのですが、この方は市政変革会議のメンバーで参加なのではないかなと思うんですが、外郭の取締役にされるものなのか。それをここで聞くのはどうなのかなと思いつつも、別に批判めいたものじゃなくて、そういうのは可能なかどうかをお聞きしたいと思います。

○委員長（日野雄二君） 空港企画課長。

○空港企画課長 市政変革の参与と兼務されているということでございます。当然、取締役候補者に上げるときにはそれなりに手続を踏んでおりますので、可能だと思われるんですけども、詳細に把握しておりませんので、確認して、もし何か事実が判明したときには委員にお知らせし、委員全体にお知らせしたほうがよろしければ、委員長の御判断で御指示いただければ、お流しいたします。

○委員長（日野雄二君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） もちろん正式な手続をされていると思うので問題ないと思うんですけども、教えてください。以上です。

○委員長（日野雄二君） 報酬はもらえるの。空港企画課長。

○**空港企画課長** 非常勤取締役につきましては報酬はございません。市政変革は把握できておりません。以上でございます。

○**委員長（日野雄二君）** 金子委員。

○**委員（金子秀一君）** 取締役には報酬はないんですか。

○**委員長（日野雄二君）** 空港企画課長。

○**空港企画課長** 役員報酬の欄に上がっておりますのが常勤の取締役のみとなっておりますので、社外取締役については無報酬ということでございます。

○**委員長（日野雄二君）** いいですか。

○**委員（金子秀一君）** 分かりました。

○**委員長（日野雄二君）** ほかに質問ありませんか。藤沢委員。

○**委員（藤沢加代君）** 今、ほかのところでも三セクの経営状況とか公表されているんですが、北九州市が出資しているのが3割ぐらいですかね。こういう会社で働いている人たちの待遇とかが気になりまして、今従業員が男11名、女10名、合計21名、平均年齢45.9歳、平均勤続年数5.40年となっているんですが、一般の公務員からするととても短いと思うんですが、こういう市が出資している会社としては普通なんでしょうか。私は勤続年数が短いのかなと思ったんですが、何でこう短いのか分ければ教えていただきたいと思います。

○**委員長（日野雄二君）** 空港企画課長。

○**空港企画課長** 北九州エアターミナルとしましても、従業員のノウハウの蓄積は非常に課題となっているところでございます。勤務場所が空港ということで市街地から離れていることもありまして、募集がなかなか厳しいというところもあるとは聞いていますし、なぜ勤続が継続されないのかというところも、いろいろ原因はあるんですけど、その辺は会社とも相談しながら、まずは働いている方のいろんなノウハウを蓄積して、会社の経営を向上させていくというところを一緒に取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○**委員長（日野雄二君）** 藤沢委員。

○**委員（藤沢加代君）** ここには待遇のことはあんまり書かれていないんですけども、悪いのか、いいのか、普通ぐらいか、そんな感覚ぐらいでも構いませんけど、分かりますか。

○**委員長（日野雄二君）** 空港企画課長。

○**空港企画課長** 申し訳ありません。ほかの第三セクターの勤続年数を調べておりませんので、比較は難しいところでございます。ただ、プロパー職員がまだ少ないというところもありますので、そこは、三セクのいろんな制度を持っている部署とも相談しながら、嘱託の方がプロパー社員になっていけるというルートをつくっていくことも大切だと思っておりますので、そこも併せて取り組んでいきたいと思っております。

○**委員長（日野雄二君）** 藤沢委員。

○委員（藤沢加代君）分かりました。エアターミナルの会社としては、職員の安定化は、やっぱり続けてもらったほうがノウハウも熟練もしていくんじゃないかと思うし、新しくなったら、また新しい人の訓練も必要だろうと思うので、そんなことを考えると、勤続年数が長いほうが働いている人たちとしても安定していいのかなと思うので、このぐらいの短さってというのは、どこに問題があるんだろうというふうなことを感じました。ありがとうございます。もうちょっと勉強します。

○委員長（日野雄二君）よろしいですか。

○委員（藤沢加代君）はい。

○委員長（日野雄二君）ほかに意見ございませんか。

（「なし」の声あり。）

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

北九州空港機能強化・利用促進特別委員会 委員長 日野雄二 ㊟